

第2回 タンチョウと共存できる流域づくり協議会 議事要旨

〔日 時〕：令和7年2月14日（金） 13:00～14:30

〔場 所〕：北海道開発局研修センター 1階 会議室

〔出席者〕：委員12名（Web出席含む）

（1）令和6年度 タンチョウの飛来・繁殖状況について

○事務局より、資料1の説明

委員 東の里遊水地へのアライグマの侵入を防ぐために、湿地の水位を少しでも上げられると良い。

会長 可能であれば、ヤナギの樹林化対策を兼ね、東の里遊水地の地盤高を少し切り下げるなど、相対的に湿地の水深を確保する方法等も検討いただきたい。

（2）令和6年度 生息環境専門部会の取組状況について

○事務局より、資料2の説明

会長 舞鶴遊水地北側の利活用については、マコモ等の試験栽培含め、地域づくり専門部会で幅広く検討することであるが、湿性植物等に関する事などは、生息環境専門部会の矢部委員に助言を求めると良い。

委員 東の里遊水地でもアライグマの性別、体重、体長のデータを採取することで、生息状況を把握することができる。

委員 東の里遊水地の湿地に対し、遊水地内雪堆積場からの融雪の水みちを少し整える事も一つの策であるが、水の供給が重要である。

委員 舞鶴遊水地北側の上部湛水地をもう少し手を加えることで2つがいが営巣できる可能性がある。

（3）令和6年度 地域づくり専門部会の取組状況について

○事務局より、資料3の説明

委員 長沼町のバスツアーは、タンチョウが観察できなくても満足度が高い。タンチョウとの共存の取組が奏功しており、モデルケースとして流域に広げていけるよう、さらに考えていきたい。

委員 今年度、タンチョウが比較的早い時期に遊水地外に出た要因の一つとして、遊水地内のシカ群集の活動を避けるほか、水田内は採食効率が高いことをタンチョウが学習したことが挙げられる。育雛期にタンチョウが遊水地外に出ることは危険が多いため、防御策が必要。

委員 舞鶴及び東の里以外の遊水地で1つがいが繁殖年齢に達しており、繁殖した場合、遊水地への一方的な侵入規制では逆効果であるため、適切に情報を提供しながら人の進入をコントロールできると良い。

委員 これまでの地域住民を中心とした地域づくり専門部会から、民間企業にも参加いただく新たな専門部会へ取組を引き継ぎ、さらにまちづくりを盛り上げられるような活動をしていきたい。

委員 令和 7 年度は舞鶴遊水地の利活用計画の見直しを実施する予定。ヤナギの樹林化については、タンチョウの生息にも影響が懸念されるため、千歳川河川事務所と連携しながら取り組みたい。

委員 令和 2 年に舞鶴遊水地で繁殖確認されて今年で 5 年目となり、長沼町としても大変喜ばしいこと。これまでの取組や地域での見守り活動の成果である。一方、令和 6 年にはタンチョウによる若干の農業被害が確認されていることから、新たな共生の在り方を地域住民や協議会、学識者の方々の意見を踏まえ考えていきたい。

委員 タンチョウを含む野生動物が市街地に進出している状況の中、野生動物と向き合った都市づくりを考える必要がある。

委員 今後、人慣れしていくであろうタンチョウ等と地域の共存のあり方を考えていく必要がある。

会長 都市域においても野生動物との接点が増えている状況を地域住民とも共有し、リスクを含めどのように対応すべきかについて議論しなくてはいけない時代に入った。